

# まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道

第二集

絵・文 福田芳生

Yotsukaido City



四街道市

# まちの記憶

色鉛筆で描いた四街道  
第二集

絵・文 福田芳生

四街道市



日頃より市政に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

令和2年度に発行され、市民の皆様より大変好評を得ました「まちの記憶」の第二集冊子を発行することとなりましたので、一言ごあいさつさせていただきます。

市内在住の色鉛筆画家である福田芳生先生の協力を得て、市ホームページで連載している「まちの記憶」には、皆さんが知っていたかつての四街道の風景が描かれています。

作品の中には、皆さんが良く覚えている景色がいくつもあるのではないのでしょうか。優しい色鉛筆の色彩の世界に、懐かしい人の姿を思い出すかもしれません。

この冊子をお手に取ってくださった皆さんが、四街道市に想いを馳せるかけがえのないひと時を過ごしていただければ幸いです。

四街道市長 鈴木 陽介



各ページに色鉛筆画で描かれた場所が参照できるQRコードを付しました。スマートフォンなどの端末で読み取ってご覧ください。

四街道を描く

私は色鉛筆画家の福田芳生（ふくだよしお）です。60歳過ぎから色鉛筆画を始めて、もう20年ほどになります。最近、テレビでも色鉛筆画の指導やコンテストがあり、なかなかの人気です。

どうして、人はかくも色鉛筆画に引きつけられるのでしょうか。それは色鉛筆の持つ色彩にあるのだと思います。独特の哀愁を帯びた色調は、絵を見る人の心に深く染み込んでいきます。琴線に触れるという言葉にピッタリです。

私自身色鉛筆画を始めた頃、実物と比べて、どうしても形や色が違うのか、これではとても絵にならないと、半ばあきらめたほどだったのですから。

写真を参考にして描くといっても、それはあくまで構図を決めるためのものです。自分で現地に出掛け、細かくスケッチします。写真と付き合わせて、丁寧に下絵を完成させます。緻密さが命です。問題の色について言えば、木の葉の色が緑だから、緑の色鉛筆を使えば良いと勝手に思い込んでいました。でも、本当は違うんですね。様々な色を混ぜて、自然の色に近づけるんです。それを繰り返しているうちに、次第に腕が上がってきました。継続は力と申せましょう。

こうして、緑豊かな四街道の風景を描き続け、「まちの記憶」第一集には、市民に馴染みのある風景32点を厳選しました。

市民に配布が始まったのは、2021年1月中旬の頃です。有難いことに大変好評で、数ヶ月で在庫がなくなり、配布は終了となりました。

この画集を手にして、現地を訪れる市民グループが幾組も誕生したというニュースを耳にしました。筆者にとって、これに勝る喜びはありません。

是非、次の画集をという声が多数寄せられました。第二集実現に向けて、日夜努力を重ね、四街道の風景34点を掲載することができました。

四街道市の名ガイド小沢武さんの助力無しには、今回の画集は完成しなかったでしょう。記して感謝申し上げます。新しい画集を手にも、市内を巡ってごらん下さい。きっと素晴らしい発見がありますよ！！

福田芳生



## 和良比本村の 懐かしい道路と家

2004年4月中旬頃

春の緑が美しい和良比本村。急な大坂を登り切ると、お地藏さん、八幡（はちまん）様の鳥居が見えて来る。昭和30年代まで、この八幡様の境内に、樹齢500年を超える松の巨木があった。松くい虫にやられ、切り倒されてしまった。

道路沿いの竹の垣根、周囲の木立、トタン張りの農家など、全て姿を消した。跡地に平成の家やアパートが次々と建てられ、往時の面影はない。この図中央の道を手前に進むと、四街道警察署・わろうべの里に至る大きな坂道に出る。



2004年4月10日現在、画面左側の建物、右側の竹の垣根と木立は、完全に姿を消した。跡地にマンションやアパートが建てられている。画面中央の道を手前に進むと、警察署・わろうべの里に通ずる大きな坂道に出る。





坂を登ると鹿渡の  
第二グリーンタウンに至る

2000年7月中旬の頃



四街道市鹿渡地区。緑豊かな丘陵が屏風のように広がっている。左端の坂は第二グリーンタウンの入口。現在、緑の山林は姿を消し、モダンな平成の家が立ち並ぶ。図中央は岸部に夏草の生い茂る小名木川。

コスモス咲く小名木川

2003年10月中旬の頃



図は小名木川中流付近、川の両岸にコスモスの大群があった。コスモスの生れ故郷は、日本から遠く離れたメキシコだ。10月に入ると、コスモスの花盛りを迎える。多くの市民が、この美しい眺めを求めて、小名木川に足を運んだ。大型台風が来襲して、コスモスの茎が折れ、水に浸ったりしたため、コスモスは激減してしまった。この美しい景色が回復するのを待っている。





## 旭公民館の入口付近

2003年9月上旬の頃



四街道市山梨地区。旭公民館の入口付近。

道路左側に、旭農協の大きな建物があった。それは米の倉庫だ。正面の長いひさしは、米の出し入れの際、雨に濡れないようにするための工夫。米蔵特有の構造。壁に亀裂が走るほど、老朽化したため取り壊され、跡地にコンビニが出来た。倉庫は昔の懐かしい風景。



## 荒井病院脇のバショウの葉

1998年8月上旬の頃



四街道1丁目14番地付近の小道。右側に大きなバショウの葉が見える。それは、荒井病院の敷地。このバショウは、毎年4月頃新芽が出る。初夏になると、グリーン色の長楕円形の葉を茂らせる。沖縄では、バショウの繊維で織った布を、バショウ布と呼ぶ。夏の着物に最適だ。このバショウも市内では殆ど姿を消した。図左側の生け垣は全て取り払われ、大きな駐車場になった。図奥のブロック塀を過ぎると、大通りが出る。正面に中華料理店バーミヤンがある。







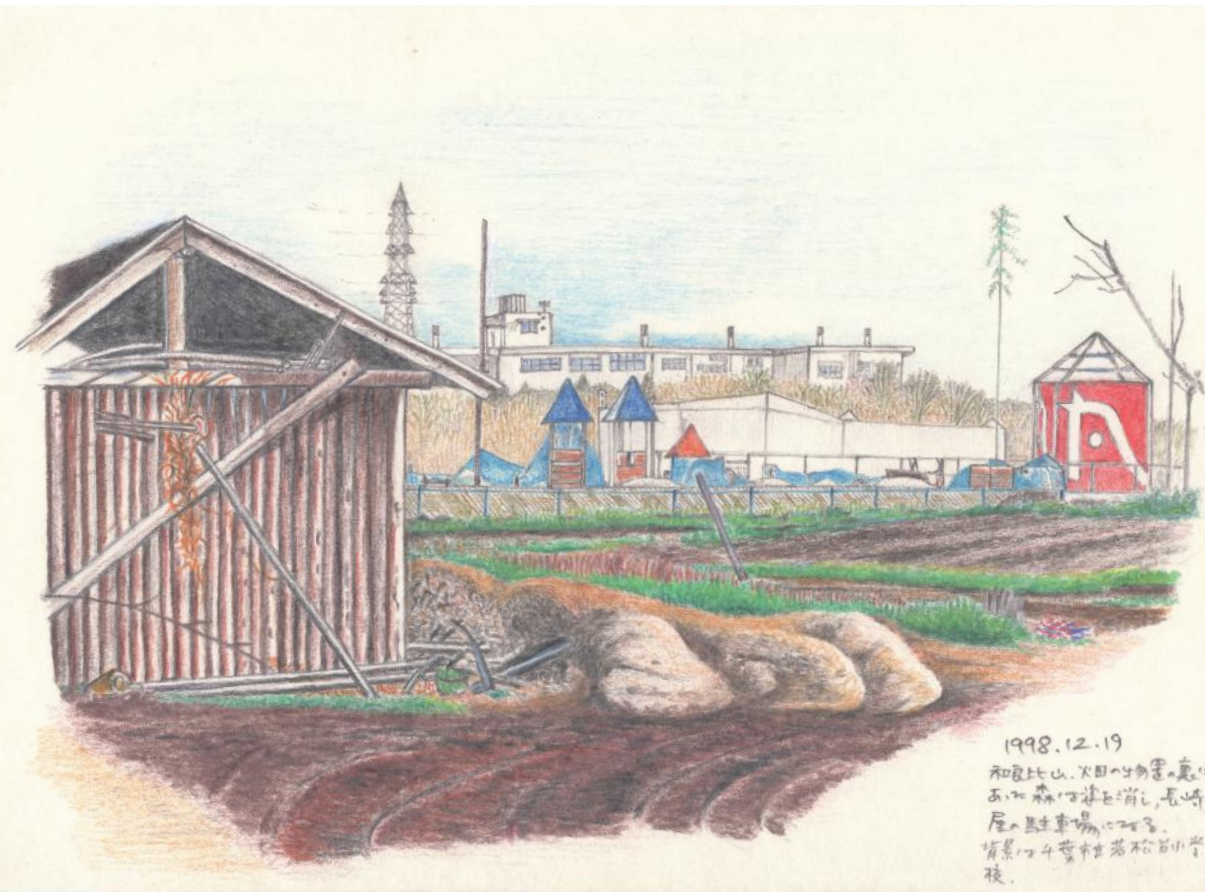
秋の彩り豊かな、鹿渡地区から続く散歩道

1998年12月中旬の頃

四街道市鹿渡地区から続く山裾を巡る散歩道。クヌギがすっかり紅葉している。遠方に長岡踏切が見える。赤い屋根の農家は、長岡地区では一際目立っている。車窓遥かに、赤い屋根の農家が見えて来ると、誰も「あー、四街道に入ったな」と思うのではないか。長岡という珍しい地名は、越後の長岡から、この地に移住して来た人々に由来するという説がある。







## 長崎屋の広告塔

1998年12月中旬の頃

四街道市和良比地区。四街道警察署、わろうべの里に至る大きな坂道がある。その左手に、ポツンと物置が見える。この後方に広い森があった。木は全て伐採され、長崎屋（現在 MEGA ドン・キホーテ）の駐車場になった。この駐車場整地の際、地下から縄文時代の落とし穴の列が見つかった。この縄文人は落とし穴によってシカやイノシシを捕らえて、食べていたのだろう。貴重なタンパク源だったに違いない。遺跡は、現在埋め戻されている。これを埋没保存と言う。この丘の右後方に長崎屋のコマドリ（ロビン）の赤い広告塔が、顔を覗かせている。この長崎屋は、和良比地区初の大型量販店。背景は千葉市立若松台小学校。



## 美しが丘近隣公園入口の坂道

2005年11月下旬の頃



四街道市美しが丘地区。スーパーせんだう、四街道郵便局へ向う大通り右側の低地に、美しが丘近隣公園がある。この公園は水田を埋め立てたものだ。水田の一部を調整池として、残している。公園入口正面に、10本の太い柱に支えられた、半円型のアーチがある。これは公園の玄関口。このアーチを越えると、幅の広い40段の階段がある。階段の苦手な方は、図の坂道を利用することを勧める。毎年11月になると、坂道の脇にあるケヤキやカエデの大木が美しく紅葉し、散歩に訪れる市民の目を楽しませてくれる。





四街道にあった  
ロンドンの2階バス

2011年8月下旬の頃

四街道市大日五差路の近くに、“なごみの米屋”四街道大日店があった。隣の駐車場にロンドンの2階バスが停まっていたものだ。言うまでもなく、本物。独特の赤い車体は、遠くからでもはっきりと認めることが出来た。2階バスは、市内の英会話教室がスクールバスとしてイギリスから購入したもの。目下、このバスは、イギリス大使館が借り上げ、都内で宣伝に使用しているという。







のどかな春の午後

2000年2月下旬の頃



山梨地区の高台より、鹿渡本村に至る坂道を望む。この坂道は鹿渡坂（ししわたしざか）と命名されている。2つの丘陵に挟まれた図中央下側の護岸がそれだ。野焼きの煙が真っすぐに上っている。風の無い静かな春の午後。図左端に遠田橋が見える。



千葉市立若松台小学校の高台から、  
長崎屋を望む

2006年5月下旬の頃



若松台小学校近くの高台に上ると、遠く長崎屋（現在 MEGA ドン・キホーテ）の全景を眺めることができる。土手の下手にある池は、泉の湧水によって、常に満たされている。そこは以前水田だった。風が止んだのだろう、水面が鏡のようだ。そこにフナ、ハヤ、ウグイ等の淡水魚が群れている。カワセミ、アオサギ、シラサギなどの水鳥が餌を求めて集まってくる。野鳥の楽園。





姿を消した  
元休日診療所の建物

2005年7月上旬の頃

四街道公民館の敷地に、休日診療所があった。この診療所は、昭和60年(1985年)に保健センター内に移転した。建物はその後、料理教室が開設されたり、倉庫として使用された。これは元野戦重砲兵第四連隊将校集会場の付属施設だった。建物がひどく老朽化したため、2020年10月上旬、遂に取り壊され、跡地は駐車場になった。

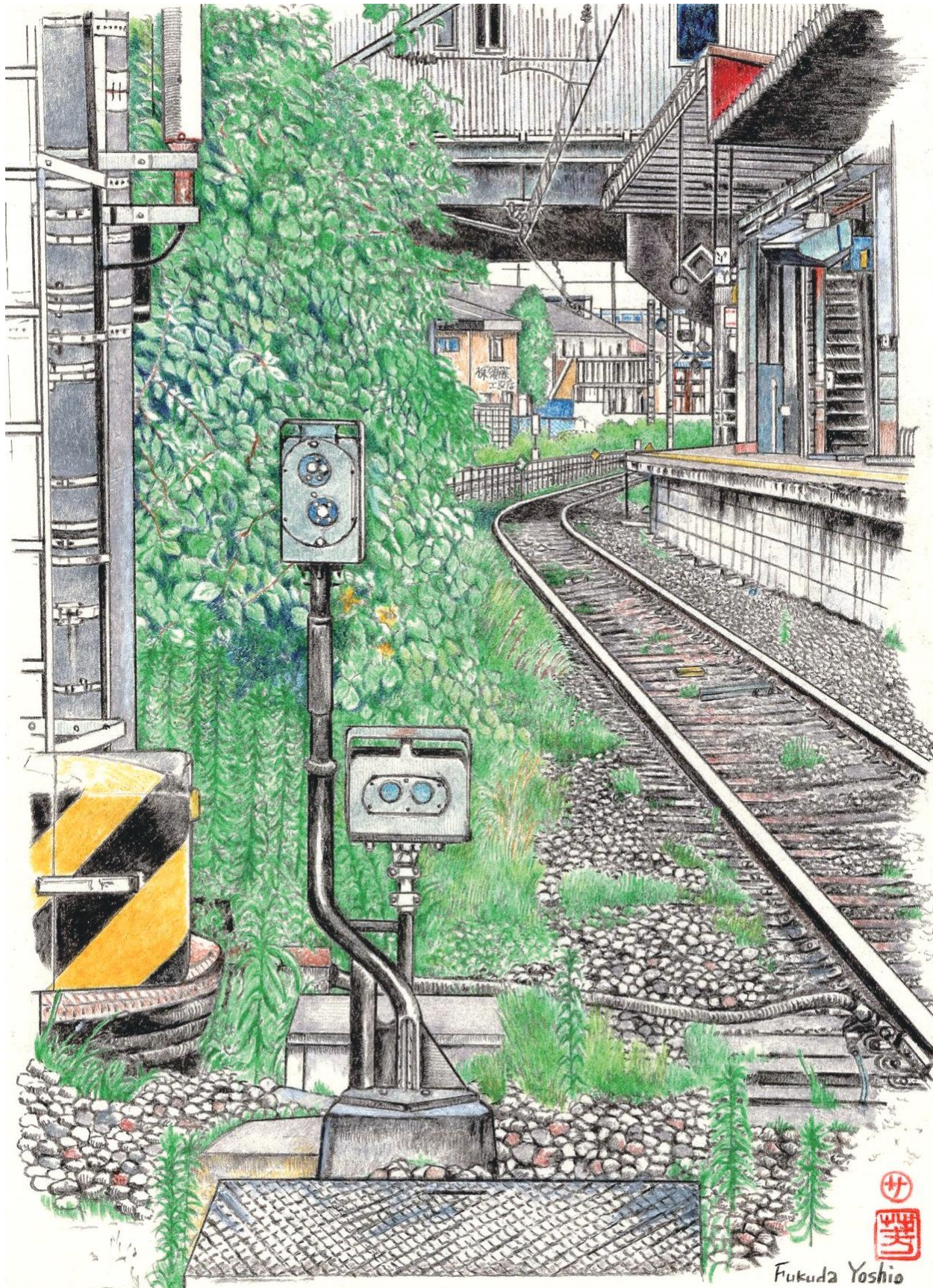


2005.7.2 市民会館親善館以来の市会屋敷の休日診療所の建物、2020年10月上旬、遂に取り壊

Fukuda Yoshio





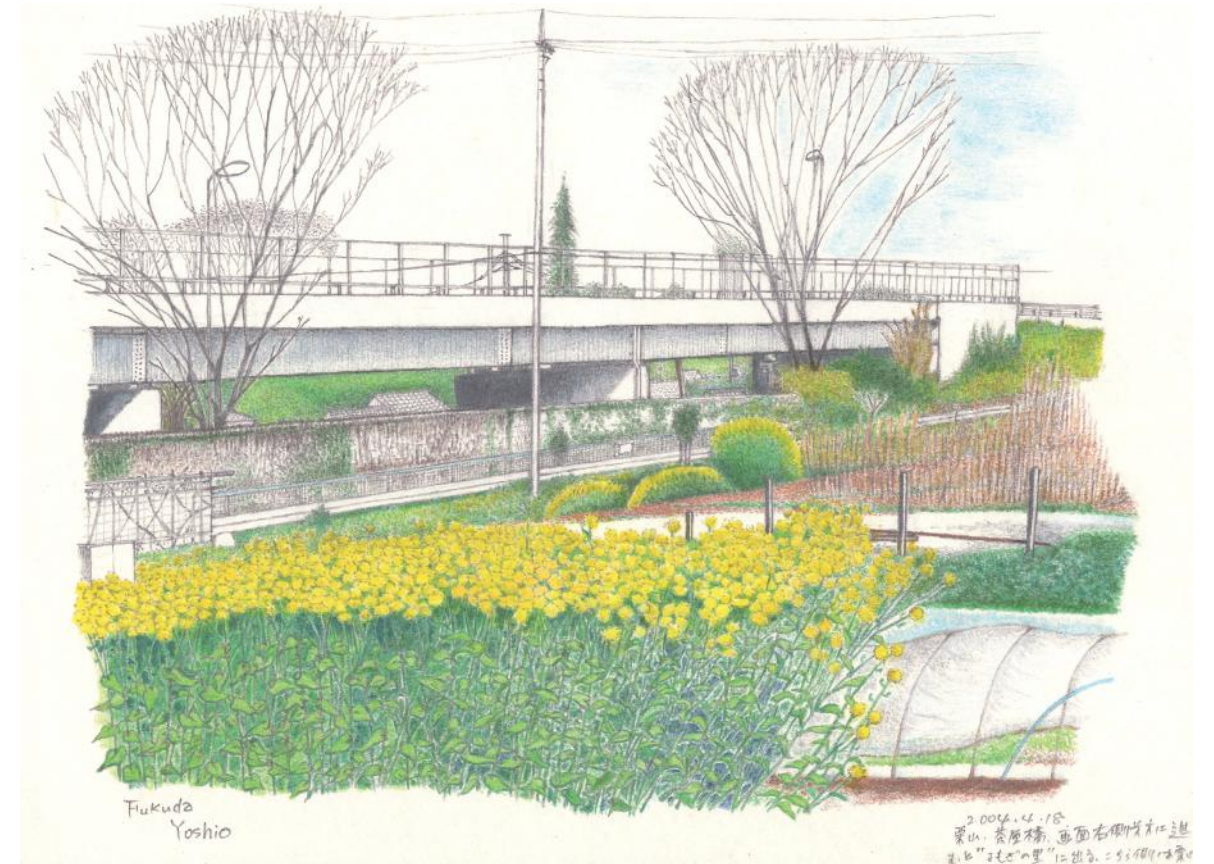


## 踏切と JR 四街道駅南口ホーム



2005年7月中旬の頃

左手前に見えるのは、鹿渡県道踏切の自動遮断器と監視装置。まるでロボットの目と言えよう。図右側に、コンクリート製の長い南口のホームが見える。ホームは、プラットホームの略。現在では、この呼称が一般的。前方の柵内側を走る2本のレールは、0番線。時々貨物列車が停まって貨車の編成替えを行っていた。黄色の建物は須藤工務店。建物の間に顔を覗かせているのは、桐の大木。この桐は、間もなく姿を消してしまった。隣接するアパート群の先に和良比踏切がある。エノキ通りに入る一方通行。午前8時近くになると、順番待ちの自動車が、長い列をつくっている。



## 茶屋橋の春



2004年4月中旬の頃

栗山の東関東自動車道入口近くに、茶屋橋がある。それは佐倉藩の殿様が上京する途中、ここで一服したという言い伝えから、橋の名称が茶屋橋となった。菜の花の最も美しい頃。この茶屋橋の先に、食堂と農産物の直売所「よもぎの里」がある。ここで食事をするのも楽しみのひとつ。



雑草に被われた  
養魚場の番小屋

1998年6月中旬の頃

今から約80年前、軍都四街道に将校  
集会場が3ヶ所もあった。

演習のたびに宴会が開かれた。大きな  
川や湖沼の無い四街道では、酒の肴を  
用意することが大変難しかった。そこ  
で養魚場を設け(町内に数ヶ所あった  
という)、コイを養殖した。成長した  
魚を軍が買い上げ、コイの洗い、コイ  
こく(コイを輪切りにして、煮込んだ  
味噌汁)として宴会に供した。四街道  
2丁目13番地付近の高台下の低地(2  
丁目14番地一带)は、戦前養魚場の  
あった場所。番小屋を置いて、養魚場  
を管理した。図の建物がそれ。築90  
年近い。番小屋は2009年4月中旬、  
姿を消した。この養魚場も戦後すっか  
り埋め立てられ、跡地に住宅が立ち並  
ぶ。昔、そこに養魚場があったことを  
知る人も少なくなった。



1998.6.13日  
2009年4月中旬、遂に取り壊された。

Fukuda Yoshio



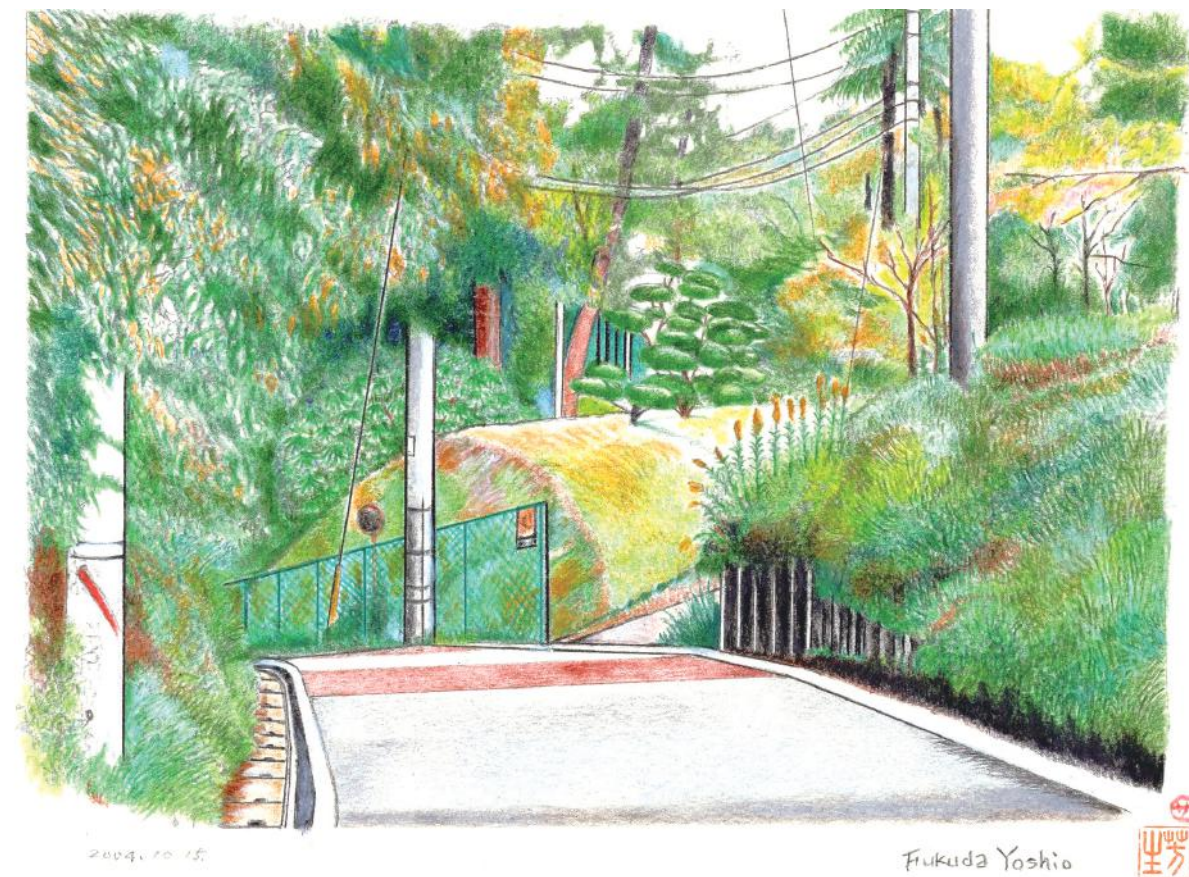




### 鹿渡本村の香取神社の森

2007年9月中旬の頃

画面中央前方に、深い緑に囲まれた香取神社がある。杉の大木が目引く。神社に杉の高木があるのは、神様が杉の木を伝って降臨するという言い伝えによる。左手前の低いブロック塀内側の木立は、すべて伐採され、深い谷が姿を現した。この谷底に農家が点在している。この香取神社を過ぎると、七曲（ななまがり）に入る。七曲とは、戦国時代に通路の角に兵隊を潜ませて、敵を襲った。その角が7つあるので、七曲という地名が起こったという。



### 鹿渡坂（ししわたしざか）の入口

2004年10月中旬の頃



鹿渡本村七曲（ななまがり）を経て、少し行くと鹿渡坂の入口に達する。大雨が降ると、土砂崩れが起こり、しばしば通行止めになった。道路工事によって、頑丈なコンクリート製の防壁が築かれ、安全な通行が保障された。図右側手前がそれ。この鹿渡坂を越えると、遠田橋（とうだばし）に出る。橋を渡ると、山梨地区に入る。人に、この様に説明すると、「え、山梨県ですか」と言われ、こちらがビックリした経験がある。



# JR 四街道駅南口構内の全景

2006年8月下旬の頃

JR 四街道駅は1985年頃、橋上駅となった。そこから和良比踏切方面を眺めると、構内を一望できる。その奥に“クリーニング店さかい”がある。屋上の高い檜（やぐら）が目印。現在クリーニング店の背後に、背の高い茶色のマンションが建っている。左手前にパチンコ店、須藤工務店の建物が並ぶ。丈の高い夏草が構内に生い茂っている様子は、なんとも長閑（のどか）な風景。



JR 四街道駅  
南口構内、一面に  
雑草が生い茂る。また  
田舎の駅だ。画面左側の  
須藤工務店の大きな木、

2006.8.27.

画面右側背景の  
緑(桜)は姿を  
消した。

Fukuda Yoshio







紅葉の始まった  
四街道小学校裏手の木立  
2005年11月下旬の頃



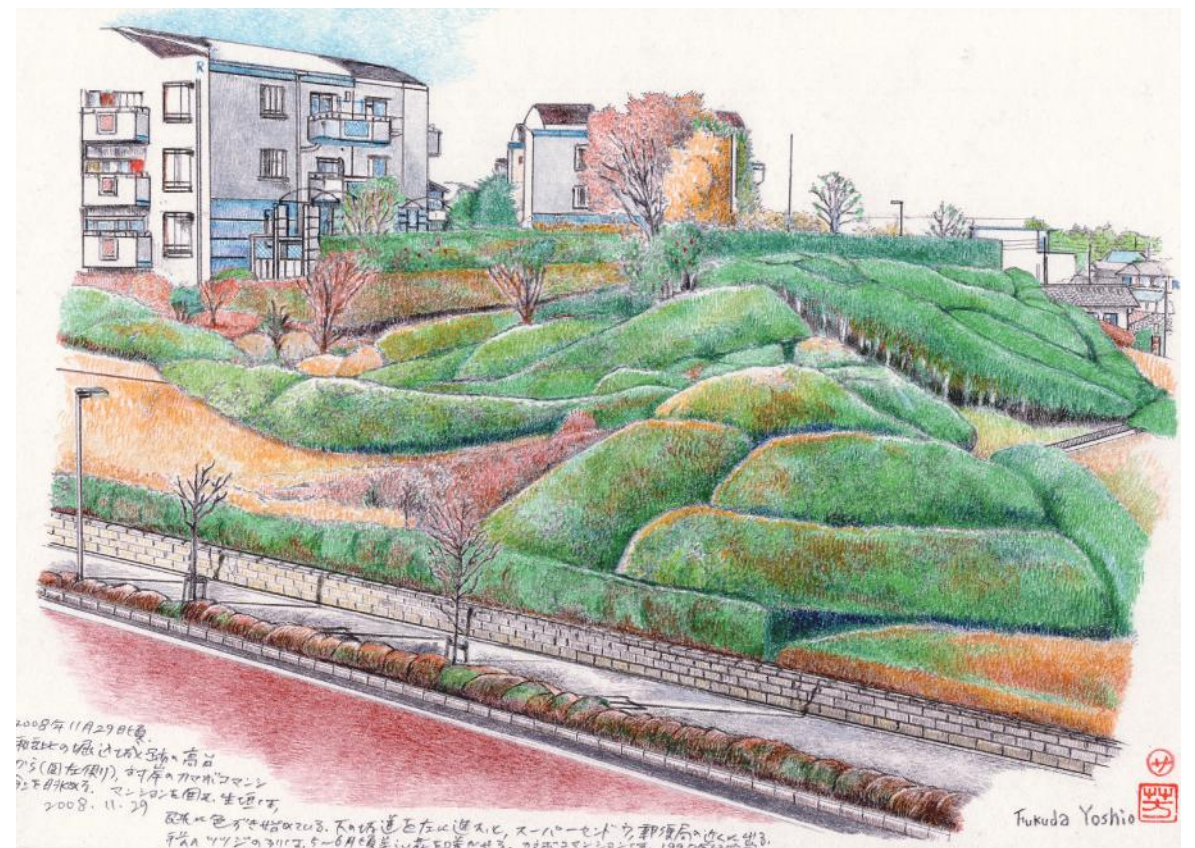
四街道小学校の裏門に面する小道右側の木立は、紅葉が始まっている。2021年春になって、校庭の樹木はほとんど伐採されてしまった。それは木が倒れたり、枝が落下して、児童が負傷するのを防ぐ、安全上の理由による。道路左側の建物は八坂弁当屋さん。元々日本料理店だったが閉店し、現在、弁当屋さんとして営業している。赤いトタン屋根はリフォームの後、グリーンに変わった。

和良比の堀込城跡広場の高台より、  
カマボコマンションを望む



2008年11月下旬の頃

カマボコマンションは、1993年に完成した。建物の形が、カマボコに似ていることから、周りでは、その様に呼ぶ人が多い。マンションの建つ丘は、秋の訪れと共に茶褐色に染まる。低木の茂る丸みを帯びた丘も、徐々に緑から茶色に変化して行く。歩道沿いのツツジは、毎年5～6月頃赤い花を咲かせ、散歩道を彩る。画面右端に、チラリと市街地が見える。



2008年11月29日  
和良比の堀込城跡の高台  
から(図左側)、四街道の  
カマボコマンションを  
望む。マンションは、  
2008.11.29  
築地色で描かれた。カマボコマンションは、スーパーマーケットの跡地に  
建てられた。5～6月頃赤い花を咲かせる。カマボコマンションは、1993年に完成した。





## 畑の中を走る舗装道路と 樹木のトンネル

2003年8月中旬の頃

四街道警察署、わろうべの里に至る大きな坂道。左側の畑の中を、狭い舗装道路が走っている。緩く傾斜していて、前方は昼なお暗い樹木のトンネルになっている。図左側の高台にある2階屋の裏手は、皇産霊神社（みむすびじんじや）の森。

杉の大木が特徴。春になると桜が咲き、なぜかほっとする。樹木のトンネルの小道は日が当たらないので、いつもジメジメしている。このトンネルを抜けると保育園、四街道中学校のグラウンド横に出る。四中生の通学路だ。学校が始まる時刻が迫り、遅れまいと駆けて行く生徒の姿が散見される。なんとも微笑ましい情景。

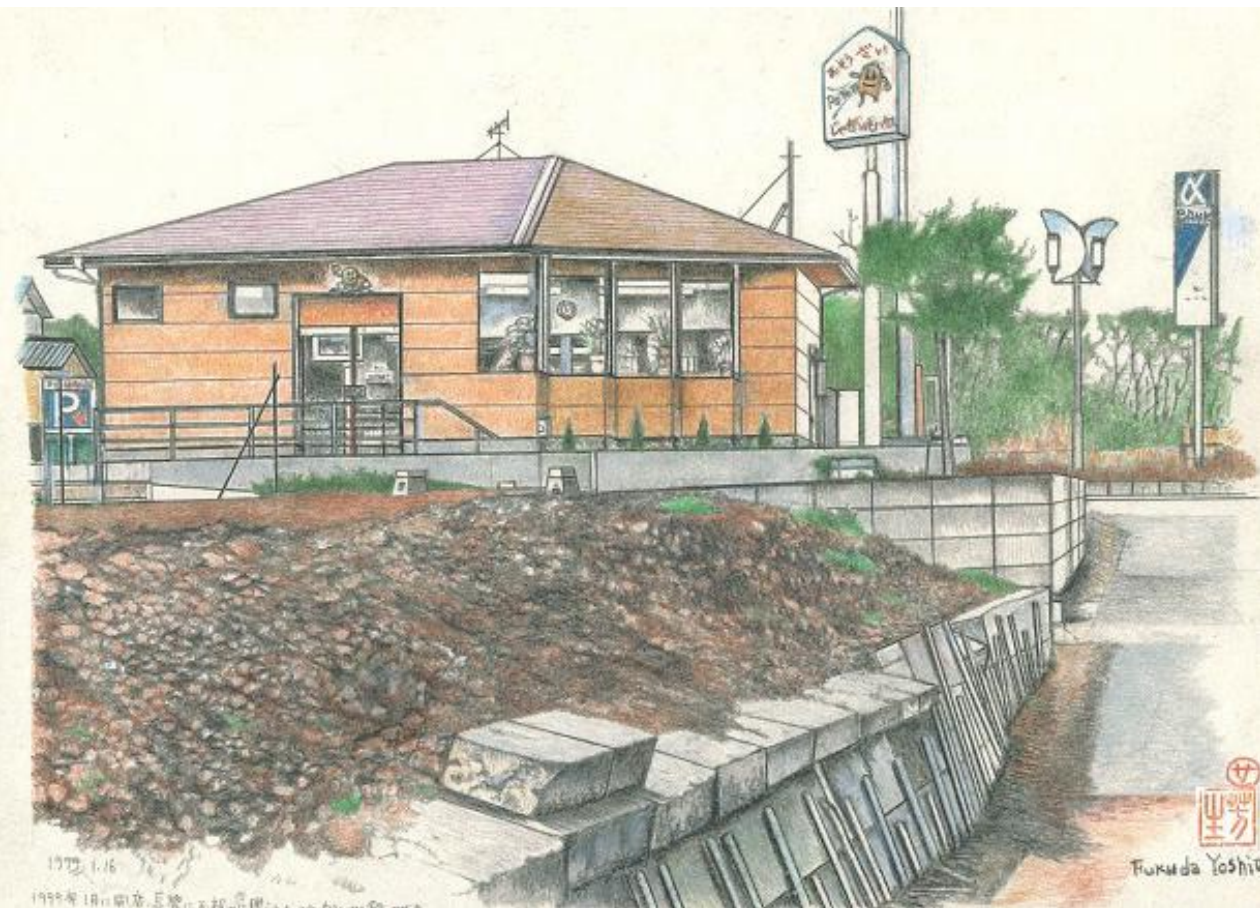


2003.8.10 昔の里、わろうべの里に行く大きな坂道の途中、左側に畑の中の風景が眼前に展開する。  
図中央の道は四中の生徒の通学路だ。中学校のグラウンド裏手に出る。

Fukuda Yoshio







開店したばかりの惣菜店  
ジャガイモ・ハウス

1999年1月中旬の頃



四街道警察署・わろうべの里に至る大きな坂道の右側に、惣菜店ジャガイモ・ハウスがある。店は1999年1月上旬に店開きした。従業員は付近の農家の奥さんたちだ。弁当も扱っている。味が良いので、客足が絶えない。窓辺に、開店祝いのコショウランが飾られている。



四街道市津之守通りにあった  
三角さんのお屋敷

2006年12月中旬の頃



津之守通りを左に折れて、護国神社に向かう道筋の正面に、三角（みかど）家があった。築100年になるという、実に堂々とした建物だ。戦前・戦中は軍人向けの記念品を販売していた。それは祝入営と書かれた盃や皿だった。入営とは、成人男性が軍隊に入ることと言った。いわゆる兵役の義務。

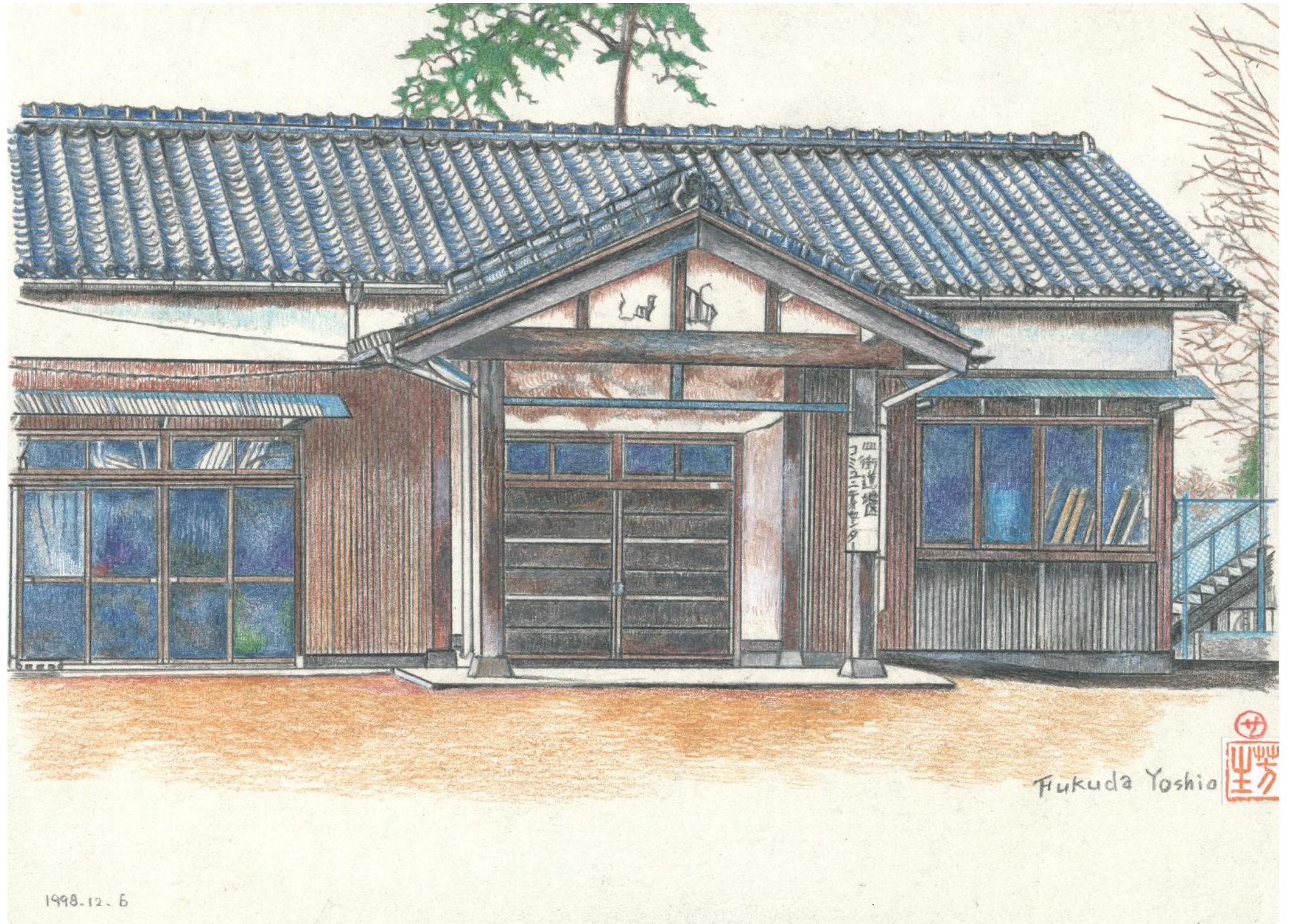
2011年頃、平屋のモダンな住宅に建て替えられた。以前の建物は天井が高く暗いので、住みづらかったらしい。2022年7月上旬、それも姿を消した。時代の流れか。



昭和 30 年代の代表的な建物、  
四街道 4 区の集会場

1998 年 12 月上旬の頃

護国神社前の広場に 4 区の集会場が  
あった。カワラぶきの平屋で、古い小  
学校の分教場のような雰囲気。1950  
年代、県内の集会場は皆同様な建物  
だった。右側の窓際に畳を立て掛け、  
干している。多分雨漏りで濡れたのだ  
ろう。2010 年になって近代的な建物  
に生まれ変わった。建物の裏手は市の  
水道局。







## 小名木川の初雪

1998年1月中旬の頃



この年は、珍しく雪が降り積もった。

雪に覆われた小名木川の両岸は、市民の良い散歩道だ。川面（かわも）は気温が低いと、濃い青色に見える。筆者も、ずいぶん寒い日だったと記憶している。川岸の雑草は枯れて、茶色になっている。護岸工事前の頃。左に進むと、鹿渡坂（ししわたし坂）に出る。



## 懐かしい昭和の家

2010年2月下旬の頃

四街道1丁目16番地付近。立崎燃料店の隣りにあった、岩佐さんの懐かしい昭和の家。赤いトタン屋根が目印。ご主人は近所で、落花生の加工・販売をしていた。筆者も1980年代に岩佐さんの店で、バターピーナッツを購入したことがある。懐かしい記憶。隣接する立崎燃料店の建物は、撤去され、(株)堀工業のビルが建っている。それは2021年のこと。図の岩佐さんの家も住人がいなくなったため、2019年春に取り壊された。図中央の低い建物は風呂場。2台の洗濯機が見える。大きな柿の木が2本あった。秋になると大量の柿が庭に落ちていた。跡地に令和の家が建った。背後の建物は、アパート。







## 古本屋さん BOOK OFF の 建物と立て看板

2001年9月初旬の頃

私(福田)は自分の住む、四街道の風景を色鉛筆で描き、市のギャラリーで展覧会を開いていた。そんな時、来場者の方が「BOOK OFF という名前の大きな古本屋さんをご存知でしょう」、「是非、BOOK OFF の絵を展示してください」、「楽しみにしています」と言われた。

幸運にも、その建物を写した写真が、引き出しの中にあった。私も BOOK OFF には大変お世話になった一人。この BOOK OFF はヤックススーパーマーケットの真向かいにあった。四街道では唯一というべき、赤や黄色の色彩豊かな建物だった。遠方からでも本と書かれた大きな看板が見えた。残念なことに、2017年春に閉店した。その後、フィットネス(健康増進)の施設として、様相を一新した。



2001.9.1

Fukuda Yoshio







## JR 沿線の懐かしい家と商店

2005年4月末の頃



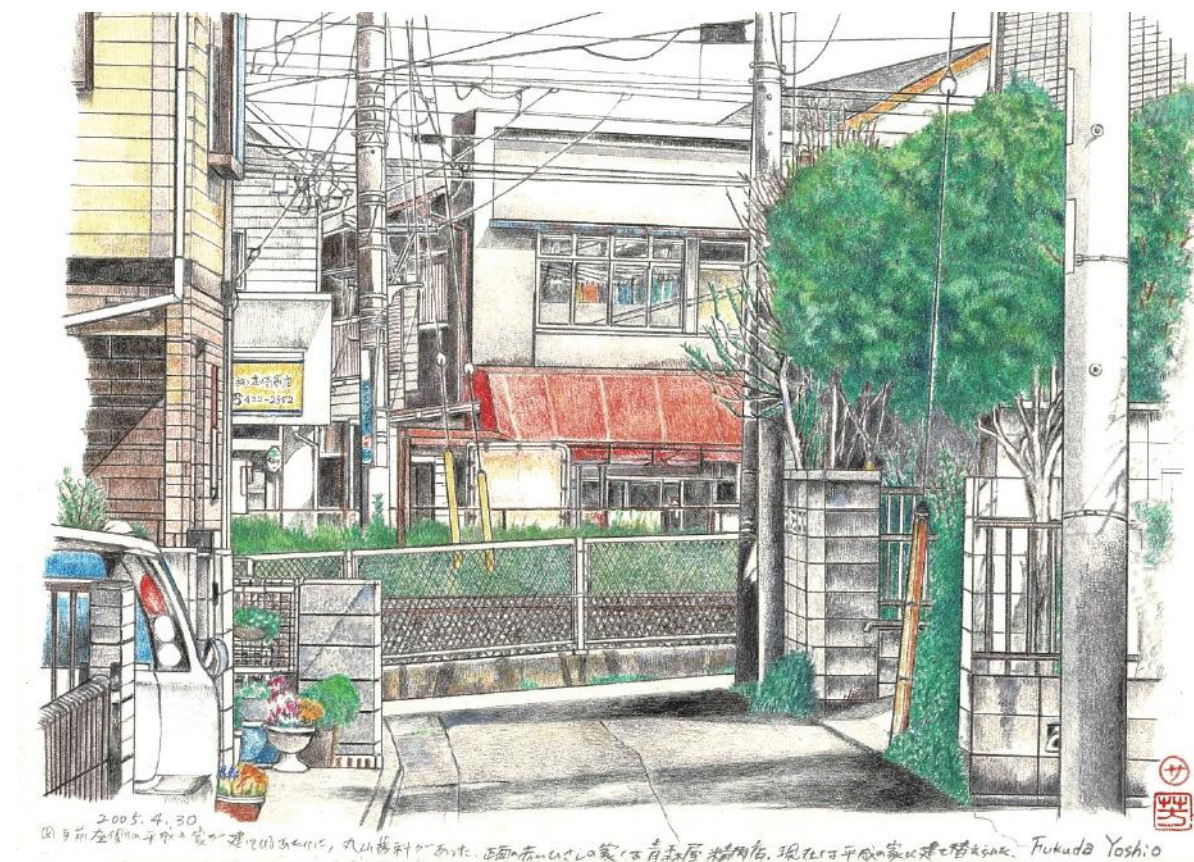
四街道2丁目6番地付近。画面右側のブロック塀内側にある緑の茂みは、伊藤接骨院。道路左側の平成の家は、以前“丸山歯科”が開院していた場所。JR線を挟んで、画面中央に見える赤いひざしの2階家は、青森屋精肉店。多くの市民が、この店で肉やコロツケを購入した。青森屋という屋号は、ご主人が青森県出身に因んだという。現在、閉店して平成の民家に建て替えられた。電柱の左側にチラリと見えるのは、立崎商店。いずれも、懐かしい建物だ。

## 懐かしいラーメンショップの バラック

2000年3月上旬の頃



四街道市の船橋街道千葉市寄りの一角、下志津新田に、赤い看板を掲げたラーメンショップのバラックがあった。店の前に綱を張っているの、この日は休みだろう。その右隣りは千葉市小深の八幡（はちまん）神社。そこに、路線バスの標識が立っている。美味しいラーメンだったので、多くのファンがいた。ご主人が高齢のため、ラーメンを調理することが困難になり、2019年に閉店した。現在、跡地は駐車場になっている。

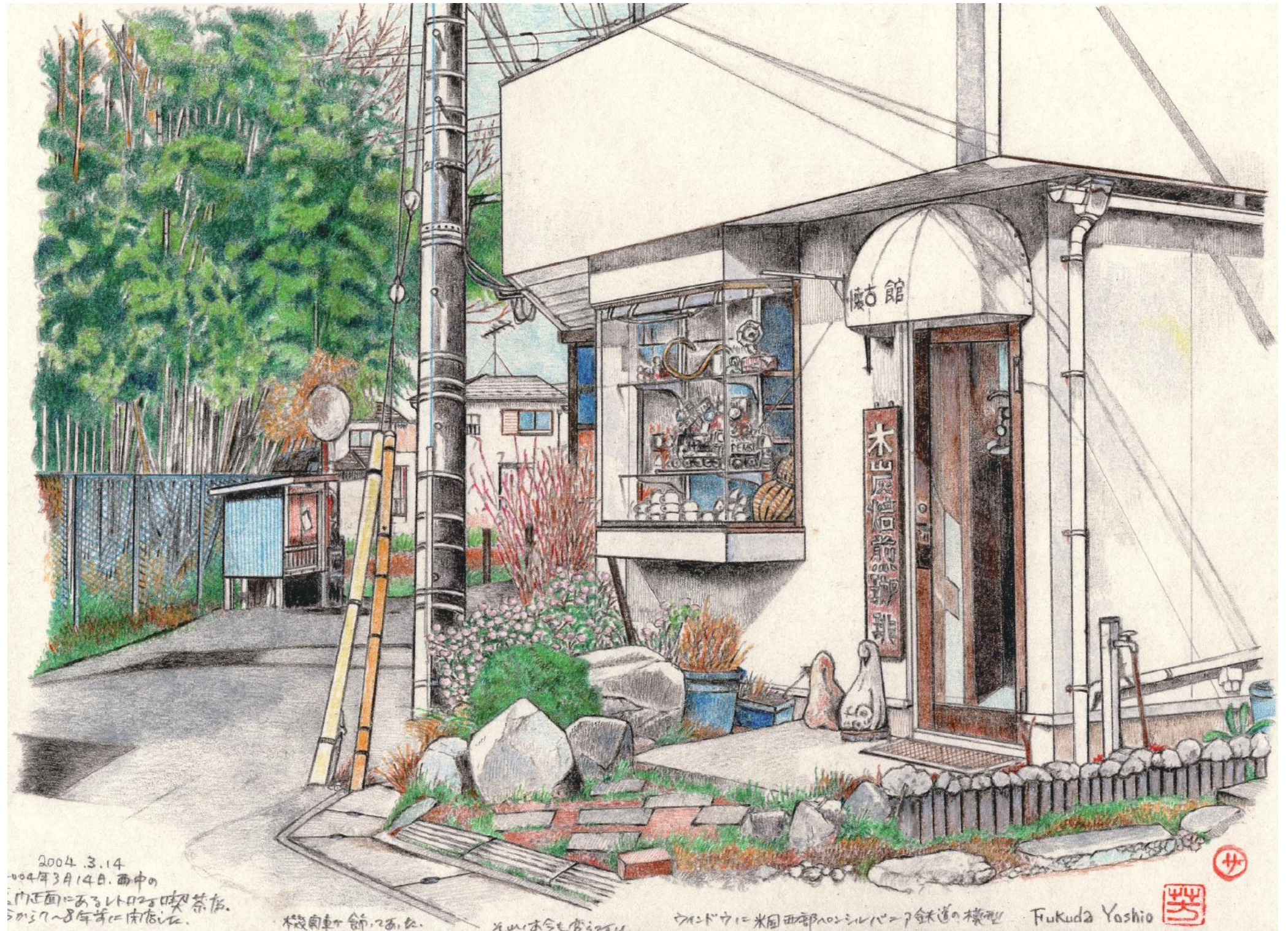




四街道西中学校裏手の  
レトロな喫茶店“懐古館”

2004年3月中旬の頃

四街道西中学校のグラウンド側に裏門がある。この裏門正面に、レトロな喫茶店、懐古館があった。ウィンドウには、機関車の精巧な模型が飾ってあった。それは米国ペンシルバニア鉄道の主力機関車。筆者も、自転車を停めて、このブリキ製の機関車を飽かず眺めていた。本物の大型蒸気機関車は、かつて北米大陸で大活躍した。店内にはフクちゃんや、ノラクロ、タンクタンクローといった戦前戦中の人気漫画が、テーブルに並んでいたという。ご主人が他界し、閉店した。それは今から約10年前のことだ。ウィンドウには、今も機関車の模型が飾られている。散歩のついでに、足を運んでごらん下さい。







## 和良比の異国情緒溢れる洋館

2007年4月中旬の頃

四街道駅南口から路地に入り、お屋敷橋に向かうと、西欧風の白い洋館が見えて来る。

木造2階建ての建物、それは行弘祐三さんの家。昭和55年（1980年）に建てたという。所在地は和良比181番地付近。いつも、道路側の石垣に草花の鉢が並ぶ。春から初夏にかけて、赤や白の花が咲き乱れ、道行く市民の気持ちを和ませてくれる。図右上の木立の間にカマボコマンションが見える。



## 緑が映えるケヤキの茂み

2005年5月中旬の頃



四街道1550番地付近。画面中央の広い道路左側に、樹齢100年を超えるケヤキの大木が枝を拡げている。これは多くの市民に愛されている景観のひとつ。秋、葉が落ちた頃数えると、8本のケヤキを認めることができた。ワゴン車の停まっている所は、果物や野菜の卸屋さん。そこのご主人が、上述の番地を丁寧に教えてくれた。

図右側のレンタカーの看板は、現在コンビニの看板に替った。道路を奥に進むと、愛国学園大学・高校の脇に出る。右に四街道公民館がある。画面奥の高層ビルは、市中央公園近くのマンション。







和良比本村、  
春の訪れを告げる菜の花

2004年4月中旬の頃

毎年4月に入ると、四街道警察署裏手の畑は、黄色い菜の花に埋め尽くされる。春風とともに甘酸っぱい菜の花の香りが漂ってくる。正に童謡「おぼろ月夜」の世界。中央に見える黒褐色の帯は畑の小路。この昔懐かしい風景が、いつまでも続くことを願っている。



2004.4.10

Fukuda Yoshio







### 福田 芳生氏のプロフィール

1941年4月、四街道に生まれる。都内の医科大学で博士号を取得し、県衛生研究所に勤務する。動物の進化、種の多様性、河川的环境汚染と水棲生物について、研究を重ねる。動物の病理学・古生物学に関する専門書30冊以上を著す。その間、早稲田大学講師を兼務。退職後、色鉛筆画家として活躍。現在に至る。



<表紙絵 解説>

## まちの記憶 色鉛筆で描いた四街道 第二集

絵・文 福田芳生

2023年2月20日発行

発行者  
四街道市（政策推進課）  
〒284-8555 千葉県四街道市鹿渡無番地  
電話 043-421-2111（代表）  
043-421-6162（政策推進課）

許可なく本書の複製、転載などを禁止します。

## 四街道市最古の洋館

2002年9月上旬の頃



四街道2丁目12番地付近にある木村家の洋館は、正三角形の独特な佇まいだ。明治36年（1906年）に建てられた。現在、国の登録有形文化財に指定されている。全国で900ほどあるという。

フランス様式の木造2階建て、地下室付となっている。建築面積は90㎡。佐川砲兵少佐が、わざわざフランスから建築技師を呼び寄せて建てた。大正になって、旧北白川宮は、ここから砲兵学校に通学していた。いわゆる野砲校。それは大正9年から11年（1919年～21年）に亘った。36歳で砲兵少佐に任官。その後、木村家が購入し、現在に至る。図右側の生垣は、元福田院医の敷地。